

市野川蛇行河川の掘削工竣工検査前 打ち合わせ記録

(日時:2021.6.9 場所:高橋周辺 参加者:5名)

県土整備事務所河川砂防部(柿崎技師)、未来都建設(株)

比企の川づくり協議会 :渡辺 仁 (記録者)

市野川水系の会イン滑川町:木村 明仁&澄川 清治

AM10 時に、蛇行河川の高橋(B 地区中ノ島)に、5 人が合流して、柿崎技師と未来都建設(株)の責任者による、「社会資本整備総合交付金(河川)工事(市野川掘削工その 8)」の竣工検査前の現地説明を行って頂きました。

関係市民側からは、河川見学会(3. 11)の意見交換会に出席して、県土整備事務所からの工事関連事項について竣工前に、工事や今後の行政側対応について確認したことについて説明を戴きました。

①A 地区 基盤岩の天然固定堰の洗掘と劣化

打合せ通りに、ボトルユニット工法(袋詰め玉石工)での洗掘・劣化防止策として、写真①のように約 2m幅のボトルユニットが設置されました。蛇行河川 A 地区へは、従前通りに流量が確保されており、当分の間は天然固定堰が有効に働いているかどうかをモニタリングしていくことになりました。堰の直下で農地を水田に転作したためにポンプアップしている農業関係者との協議は、水系の会・河川砂防部とで確認をとっておく必要があると思います。

②B 地区 巨岩石材の流出による蛇行河川 B 地区への掃流力の低下

打合せ通りに、ボトルユニット工法(袋詰め玉石工、50 個弱)で、堰高 1.2mを確保されました。但し、ボトル内詰め込み材はA地区同様に「玉石」では無く、掘削現場からの土砂であるため、今後の洪水流量にて縮小・流出も考えられることから、堰高や堰幅等が縮小することが考えられます。ここも、モニタリングを行っていく必要があります。

③C地区 蛇行河川左岸護岸の決壊回復と、直線部呑口のボトルユニットの流出について

写真④の通り、護岸の回復が行われ、直線部呑口のボトルユニットの配列を確認し、幅 6.4m高さ 1.4mを認めました。C地区の蛇行河川は、河床縦断面はユンボ掘削であるため、概ね平面的に形成され、川幅も 4~5mに均一化されております。淵やトロ(瀬)などは、今後の河道流の営力に任せるしか期待出来ませんが、経過年数などは予測不可能と思われます。

④D地区 右岸カゴマット護岸の変形や直線部呑口の欠損箇所

今回の「市野川掘削工その 8」では、工事着手出来ないことは承知致しましたが、埼玉県予算措置によって対応可能ともお聞きし、期待しています。高橋入り口の町道脇に掲示されている大型看板『水辺空間整備事業—市野川の自然環境を生かした河川改修を行っています—』も、アレチウリに覆われており、何の看板か分かりづらくなっており、改修工事で地形表現が明確ではありません。町役場と協議されて、加筆修正や管理等を望みます。

以上



写真 1—3 枚:A 地区直線河川呑口ボトルユニット工法 2 段 幅 2m 深さ 1.6m。蛇行河川への維持流量は、順調に確保されている。



写真 2—3 枚

:①B 地区交差部の流向は、蛇行河川の維持流量の機能を果たしていた。C 地区ボトルユニット工法との勾配は、概算で 2.3%ぐらいとなり、C-B 蛇行河川の河床勾配約 0.9%の 2.5 倍に急峻になっていることに注目したい(マニング式による流況変化)。

②B 地区の 3 段ユニット工法 幅 6.4m 高さ 1.2m の暫定堰は、今後の洪水で何年間維持できるか、固定堰設置を再設置するためのモニタリング調査が必要と思われます。



写真 3—3 枚 : B 地区蛇行河川に流量が確保されました(再生)。一方、直線河川の現状は、洪水期でないため湿地・草地のワンド化することが期待されます。

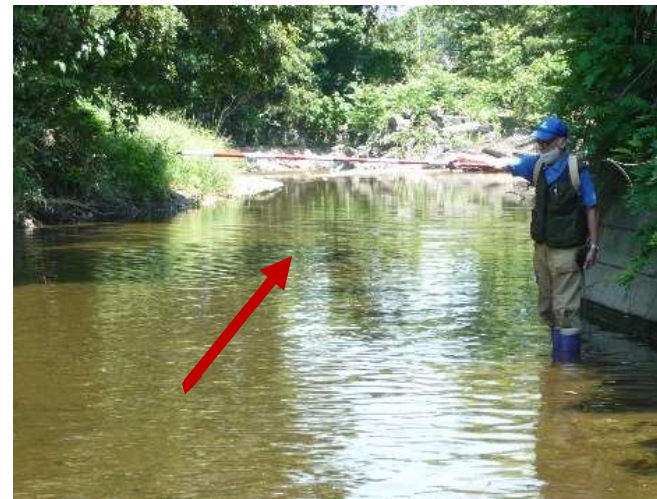


写真 4—3 枚 : C 地区直線河川呑口ボトルユニット工法 3 段 幅 6.4m 高さ 1.4m。蛇行河川護岸補修と河川幅約 4~5m、河床は一律掘削のため多自然型は見られず

比企の川づくり協議会 & 市野川水系の会イン滑川町による視察結果(6 月 9 日)